

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第118号)

岡山大学附属図書館リニューアル

岡山大学附属図書館は、昨年八月から中央図書館の本館部分と鹿田分館全面の耐震改修を行っていましたが、本年五月九日にリニューアルオープンいたしました。

中央図書館

中央図書館では、今回の改修で、一階～三階の階層を意識した空間づくりを行い、利用者のその時々の学修スタイルを選択できるようになっております。

岡山大学のシンボルである時計塔の意匠を残しつつ、周辺をガラスウォールに変更。多くの光を取り込み明るく開放的な学修空間になっており、来館した皆様から「きれいで明るい図書館になった」とご好評いただいております。



[中央図書館正面]

<一階>

狭い、暗い。評判の悪かった玄関を一新。ラウンジのある明るいエントランスになりました。

一階東エリアは、人が集い学ぶ、自由に会話のできる空間です。ドリンク類を飲むことも可能で、アクティブな学びの活用をめざしています。

自由に動かせる机とホワイトボードを活用してプレゼンテーションの練習なども行えるラーニ

ングコモンズ。たくさんの語学教材を揃え、リスニングや会話学修のできる語学学習スペース。

自動販売機やハイカウンターが設置されたリフレッシュスペースがあります。現在最も賑わいのある空間です。ラーニングコモンズには、学生アシスタントを配置し様々な相談を受け付けています。

<二階>

二階には、四十台のパソコンが自由に使用できるPCエリア。ひとりでじっくり学修するために広めのテーブルを配置した従来型の個人学修空間があります。

<三階>

三階東エリアは静かな環境で集中して学修するためのサイレントエリア空間です。電卓などの利用もご遠慮いただいております。

西エリアは、グループワーク空間で、最大百名が利用できるセミナー室や大きめのホワイトボードがあるグループ学習室、学習個室を九室整備しました。

鹿田分館

三階建てで、西側はJホールとの一体感を出すためにミラーガラスになっています。また、カフェを併設し、学修の合間に一息できる建物となりました。

中央図書館と同様ゾーン分けをし、一階にラーニングコモンズ。二階に従来型閲覧席とPCスペース。三階はサイレントゾーンになっています。二、三階にはセミナー室もあります。

配架も、一階に雑誌用集密書架。二階が、歯学・看護系図書、雑誌用集密書架。三階が医学系図書とゾーン分けされています。

改修前に比べて、面積が一・五倍となり、席数は三百五十三席と倍増されました。

(岡山大学附属図書館 遠矢厚志・川上研三)

**久米南町図書館 町制施行六十周年記念企画
日々の活動について**

久米南町は今年、町制施行六十周年を迎えました。それを記念して、久米南町図書館では様々な企画を開催しました。(※現在開催中の行事あり)

○貸出しスタンプラリー

平成二十六年五月十六日(図書館開館記念日)～八月三十一日まで、『貸出しスタンプラリー』を開催しました。一冊借りる毎にカードにスタンプ一個を押印し、六十個のポイントがたまると景品をプレゼントします。また、カードが三枚たまると「久米南町図書館ブックリーダー」、四枚で「達人」、五枚で「名人」に認定し、「名人」になると、図書カード(五百円分)を贈呈しました。

老若男女関係なく、ポイントを集めるのは楽しいようです。期間中は、貸出冊数の増加に繋がりました。

○「六百冊の本好きな人」を募集!

平成二十六年四月二日～平成二十七年三月三十日までに六百冊以上の本を借りた利用者へ特典を設けました。内容は、「久米南町図書館長賞」として賞状を授与、平成二十七年度中の一年間のみ利用できる、貸出し数制限なしの「ゴールドカード」を贈呈としました。

六十周年ということで、“六”という数字にこだわり六百冊にしましたが、思わぬ反響があり、本が好きな人の多さを改めて実感しました。

○久米南町パノラマ年表の展示

昨年度開催された美作国建国一三〇〇年のイベントの一つとして、受付カウンター上部に二十mの長さのパノラマ年表を掲示しました。

町の節目となる出来事を写真と共に掲示し、久米南町の歴史を体感してもらうことを目的に作成しました。



[久米南町パノラマ年表]

○久米南町内小中学校との連携

平成十九年四月八日から週に一度、町内中学校・小学校三校へ図書館スタッフの派遣を行っています。小学校では、読み聞かせやブックトークを行うことで、子供達にもっと本を好きになってもらうきっかけ作りをしています。現在では、沢山のリクエストも寄せられるようになりました。先生方からも、授業で使用する本の相談窓口になっています。

○めざせ!貸出し日本一

人口八千人未満の町村立図書館(一二三町村)の自治体別指標(日本図書館協会「日本の図書館」二〇一三より)の中で久米南町図書館は、貸出密度(貸出し数÷奉仕人口)で九位の実績でした。この指標の結果から、さらに貸出し数を伸ばしていく努力をし、サービスの向上に努めています。

「生活アイデア講座」や「ヨガ教室」など、普段図書館に来館しない方にも興味をもって頂く行事の開催。「貸出しスタンプラリー」を実施し、貸出冊数増加にも尽力しています。“めざせ!貸出し日本一!”

○久米南町の民話を掘り起こす!

平成二十六年七月六日、立石憲利先生(総社市)による『おはなし会』と『民話の語りビギナーズ教室』を開催しました。

初めて開催した民話の語り教室では、大勢の参加がありました。立石先生の「誰でも“語り手”になれる」という言葉に励まされ、参加者の中から数名が「ねずみのおみせ」を実際に語りました。これを機として、民話の語りに興味を持たれた方々からのグループ結成にもつながれば良いと思います。

今回の教室を開催したことで、改めて町内の民話を掘り起こそうという動きも出てきました。

高齢化が進み、私たちの周りでは昔話や伝説を聞いたことがあるという方が年々少なくなっています。

今、図書館が中心となって町の民話を掘り起こし、冊子に纏めることで、後世に伝えていく役割を地域の皆さんと協力して、計画していけたらと思います。

(久米南町図書館 国忠成子・金畑恵子)

西大寺でビブリオバトル

ビブリオバトルとは、最近図書館や書店などで開催されることも増えてきた「知的書評合戦」です。発表者が五分間で自分のおすすめ本を紹介、その後二～三分間の質疑応答を行います。全員の発表が終わったら、どの本が一番読みたくなったかを参加者全員で投票し、最多票を集めた本が「チャンプ本」となります。

西大寺緑花公園緑の図書室(以下「緑の図書室」)では、大人向けの読書イベントをずっと模索中でしたが、世間でも少しずつ認知されてきたこのビブリオバトルの開催にチャレンジしてみようということになり、計画をスタートさせました。そして、百花プラザ(緑の図書室が入っている施設)のイベント「百花彩二〇一四～^{ひゃっか せいほう}百花斉放まつり～」に合わせ、その一環行事として平成二十六年五月十七日に初めてビブリオバトルを開催することになりました。

参加申し込みの受付は四月一日から開始しました。会場となる会議室の定員に合わせ、発表者と観戦者合わせて二十五名程度を募集しました。チラシを作成し来館者に配布したり、ポスターを掲示したり、また、ホームページやフェイスブック、ツイッターで告知を重ね、「知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト」

(<http://www.bibliobattle.jp/>)の開催カレンダーにも依頼して載せていただきました。結果的に、高校生以上と設定した発表者に六名、参加条件を特に設けなかった観戦者に十八名の方がお集まりくださり、当初の予定にほぼ沿う人数となりました。

当日の発表はじゃんけんで順番を決めスタートしました。発表の際には、専用のカウントダウンタイマーをプロジェクターで発表者の後ろに表示させると演出効果が高まります(このタイマーは公式ウェブサイトでダウンロードできます)。初参加の方がほとんどであったにもかかわらず、皆さんがルールをきちんと把握していて、非常に

スマートに進行していきました。質疑応答の時も活発に手が上がり、進行係がフォローする必要もほとんどありませんでした。全員の発表の後、挙手による投票を行い、チャンプ本(今回は多島斗志之著『症例A』角川書店)に選ばれた方に賞品を、その他の発表者には参加賞をお渡ししました。



[ビブリオバトル発表中]

あつて嬉しかったという発表者の声もあり、観戦した方々からも、他の人がどんなふうの本を読み、考えているのかを知ることができて興味深かったという感想をいただきました。

ビブリオバトルの様子は、平成二十六年五月二十日付の山陽新聞朝刊にも取り上げていただきました。その記事や当日撮影した写真と一緒に、紹介された本や関連本を集めた展示コーナーを緑の図書室の貸出カウンター前に設置したところ、多くの本が貸し出され、チャンプ本には予約も



たくさん入りました。 [ビブリオバトル質疑応答中]

読書という行為は基本一人の活動ですが、ビブリオバトルには他者と共有できる読書の楽しさを提供する可能性があるといえます。これはソーシャル性を持った読書の新しい楽しみ方の一つとして提示され得るものでしょう。そのあたりに図書館で開催する意味を見出してもよいのではないのでしょうか。

(岡山市立西大寺緑花公園緑の図書室 山崎佳代)

備中圏域7市3町の図書館 相互利用サービス始動

高梁川流域連盟創設六十周年記念事業として平成二十六年四月一日から始まりました。

これは、新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市の七市三町が圏内に在住する住民の利便と文化向上を図るため始められたものです。

倉敷市の場合、開始から一ヶ月ほどたった頃に開催された司書会での報告には、隣接した市や町のある館では三十名弱の登録がありましたが、在勤の方の利用が多い館は、三名程度の登録であり、各館で差がでました。

ポスターをご覧になった方は、興味をもたれるのですが、借りた本をその自治体の図書館に返さなければならないので、近くまできたから借りて帰ろう、といった気持ちで借りるわけにはいかないという不便さもあり、躊躇された方もいらっしやるようでした。

反面、在勤の際は利用できていたが、退職した後利用できなくなって残念に思っておられた方とかは利用できるようになり、喜ばれているようでした。

はるか昔、司書課程の実習で芦屋市の移動図書館に乗った時のことですが、隣接した市の子も達が移動図書館車の音楽に引き寄せられて本を借りにやってくる、「〇〇市の子もなら〇〇市の車が来るから、そちらで借りてね」と言われていた光景が思い出されました。大人の方でも「どうして貸してもらえないのか」と質問される場合があります。倉敷市で勤務するようになり、「図書館は誰にでも無料で貸してもらえんじやろ」と聞かれるたびに、「倉敷市にお住いの方か、通勤、通学されている方…」と説明し、退職されたばかりの恩師に、残念ですがと、お断りをしてさびしい思いをしたことも思い出されました。行政区域とは悲しいものだと感じていた図書館の仕事ですが、少しサービスの対象が広げられたこと

は、うれしく思います。

始まって四ヶ月がたつ七月末で、倉敷市では一五〇人余りの方々が登録されました。この記事を書くことになり、他の自治体の図書館の様子をお伺いしたところ、登録数は一桁から二四〇人余りまでと自治体により数にばらつきがあります。利用される方の声を拾っていただきましたが、どの館でも「今まで借りることのできなかつた図書館で借りることができてうれしい」といった感想がよせられています。さらに、この圏域以外の自治体の方に「すぐ隣だけど、対象自治体ではないが私たちがも貸出ししてもらえたらなあ」といった要望が以前より増えたようだとされる館もありました。また、お住まいのある自治体のカードを持って来館される方もおられるそうです。

図書館で実際に本を手に取り選んで借りるといふ、図書館の楽しみの一つである選書の幅が広がったことを皆さんは喜ばれているのではないかと感じました。このたび登録していただいた方には、今できるサービスを最大限に使っていただき、今まで以上に図書館を利用していただきたいものです。

追伸：この記事を書いている最中にレファレンスがあり、高梁川流域連盟の機関誌『高梁川』をひっぱりだして対応いたしました。郷土資料の強い味方です。

高梁川流域連盟創設 60周年記念事業

備中圏域7市3町の図書館が利用できます

お知らせ

新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市の7市3町は、圏内に在住する住民の利便と、文化向上を図るため、平成26年4月1日より高梁川流域連盟の相互利用サービスを始めました。

利用可能なエリア

圏内に住むの方は、このサービスに申し込んでください。

ご利用にあたって

- 利用にあたっては、各図書館のルールを守ってください。
- 図書等を借りる時は、各市町ごとの利用者カードが必要となります。カード発行の際に住所などの確認が必要ですので、運転免許証、保険証、生徒手帳などをご持参ください。
- 貸出図書等の種類や冊数、貸出期間等は各図書館で異なりますので、利用される図書館におたずねください。
- 借りた図書等は、必ず借りた図書館にお返しください。

[高梁川流域連盟創設 60周年記念事業ポスター]

(倉敷市立児島図書館 原浩子)

真庭市立図書館の取り組み やっぱりマニアなマニワ

真庭市には、図書関係の施設として久世・勝山・蒜山の三図書館と北房・落合・美甘・湯原の四図書室があります。図書館・室毎に、地域性や利用者のニーズに合わせて様々な取組を行っています。

しかし、平成十七年の合併以降、真庭市立図書館全体で行った事業は、美作国建国一三〇〇年展示企画しかありません。そこで何かできることはないかと考案したのが、以下の二つの合同イベントです。

子どもの読書週間“自然とあそぶ”

一つめは、子どもの読書週間中に、同じテーマの本を展示・貸出するイベントを企画しました。

真庭市としてアピールできるものは何かと考えたとき、「そうだ!“杜の都まにわ”なら自然がいっぱいあるじゃないか！」という事で、“自然とあそぶ”をテーマとし、各図書館・室で特集コーナーを設けました。

野鳥を呼びよせる方法、ロープの結び方、昆虫の生態など、自然とのあそび方を紹介する本を展示・貸出ししました。また、手作りのおもちゃを展示するなどして、子どもたちに興味をもってもらうコーナーも設けました。

ゴールデンウィーク中ということもあり、親子での利用が多くみられました。



[自然とあそぶ]

まにわくるくる図書便

二つめは、真庭市全体により広く各図書館・室をアピールしていく方法を考えました。そこで、各図書館・室が力を入れているお薦め本三十冊を

セットにして、一カ月のサイクルで本を巡回させる“まにわくるくる図書便”を実施しました。

インターネットが普及し、手軽に他館の資料が検索できるとはいえ、来館される大多数の利用者は、図書を直接見て、気に入ったものを手にとられます。そこで、最寄りの図書館・室で本を実際に見ることができたら便利なのではないかと考えました。

今年の六月から初の試みとして実施しているところですが、利用者の方から大変好評をいただいています。コーナーは出入口付近に設置し、どの年代層の目にも留まりやすくなるよう工夫しています。POPや面出しでの紹介も効果的です。

セット内容は、小説や時事問題、自然科学、世界遺産や絵本など、ジャンルの異なる図書を揃えました。普段は訪れることのない図書館・室の本がある！ということで、館内でじっくり読む方



[まにわくるくる図書便]

や貸出しも多くあります。

「美甘にも図書室あったんじゃ」「落合の絵本ええなあ」「えっ！蒜山って図書館なん？図書室じゃないん」などの新たな発見や驚きの声もいただき、図書館・室自体に興味を持っていただいていると同時に、新たな情報を発信する機会の提供にも繋がっています。

県内一広い面積をもつ真庭市ですので、“本がくるくる回り、人に近づいてくる”というこの取組は有意義なものとなっています。

今後も図書館・室の繋がりを様々な形にして、利用者の方に届けていきます。

(真庭市立勝山図書館 多曾田陽子)

プーさん文庫は地域とともに

プーさん文庫の前身である家庭文庫「はちのこ文庫」は一九七七年に犬飼明子さん主宰で始まりました。当時『子どもの図書館』（石井桃子著）に影響され全国各地に家庭文庫が開設された時期でもあり、世界共通語にもなった「BUNKO」が日本独自に活況したのは、公共図書館政策が貧困な裏返しでもありました。

一九八八年、岡山市政百周年事業としてチボリ公園構想と同時に老朽化した幸町図書館を壊して別物にする案が浮上りました。文庫関係者たちは驚いて、署名活動や議会・行政への陳情活動を始めました。幸いにも市は当初案を撤回し、幸町図書館はアイブラザの一角に生き残りました。この経験を契機に私たちの身近な所に図書館を造ろうという運動が盛り上がりました。

そして一九八九年、個人に負担の大きい家庭文庫に限界を感じた犬飼さんに相談され、地域の有志が集まって「プーさん文庫」（地域文庫）を立ち上げ、吉備公民館で活動を始めました。活動の柱は土曜日午後の定例文庫ですが、人形劇やストーリーテリングなども学習しつつ手探りで始めました。活動が広がると毎月のミーティングやおたより発行、勉強会は欠かせません。

数年後、定例文庫は当初の数十人規模から子どもが一人も来ない日もある危機的な状況になりました。塾やお稽古事などに子どもの時間が奪われていったのです。一方、文庫の活動を認めて地域の社会福祉協議会や更生保護婦人会が資金援助を始めて下さるようになりました。そこで私たちは、地域に対する感謝の気持ちを表す為にも、子どもの居る所に出かける「出前文庫」を始めました。以来十数年、地域を中心に八つの幼保園に毎月出かけています。子ども達とプーさんはすっかり仲良しになっています。

一九九九年、こうした活動をまとめた『絵本のあらくらし』（吉備人出版）を出版しました。テーマ別に絵本を紹介した画期的なブックガイドとして評価され、七刷りまで出しました。

二〇〇〇年、国際子ども図書館が開設され子ども読書年となったのをきっかけに、赤ちゃんからも絵本をと『あかちゃんの絵本箱』（吉備人出版）の編集に参加し、ブックスタート事業を県内自治体に働きかけ、吉備地区の乳児健診で絵本の紹介と共に親の子育て相談にも関わっています。

二〇〇六年、吉備小学校の体育館二階をお借りして私設の「プーさん図書館」を開設し、放課後子ども教室をしています。犬飼さんが集めた絵本・児童書約五千冊を揃えて、毎週水曜日の午後、本の読み聞かせや貸出しをします。

近年は、高校で絵本やボランティアの授業もします。高校生が子どもの頃読んで貰った絵本に「懐かしい！」と声を上げる姿や、保育園に読み聞かせに出かけた時のはにかんだ嬉しそうな顔はとても素敵です。また高齢化が進む社会ですから、地域の老健施設にも毎月出かけ絵本や昔話で楽しみます。要請あれば出前文庫・出前講師に応じ、絵本講座を開催しています。

絵本は子どもだけでなく、様々な年代に共感と感動を与え得ると確信しましたので、二〇一二年、県との協働事業を踏まえて、家族で読み合う為のブックガイド『すてきな絵本タイム』（吉備人出版）を出版しました。絵本を通じて文化を共有することで家族・地域を繋げていきます。

今年から二年間、定例文庫は吉備公民館の建て替えに伴い近くの中国学園大学図書館でします。地域に大学図書館を開放し、絵本を楽しむ乳幼児の様子を学生さんとも共有できる良い機会になりました。そして四月、社会貢献ボランティア団体として緑綬褒章をいただきました。

図書館運動は道半ばであり、子ども達や本を取り巻く状況は変わっています。しかし私達は、時代が変わっても子ども達の本質は変わらないし、本を読み合う「幸福な記憶」は一生を通じて心の支えになると信じて活動を続けています。

(プーさん文庫事務局 横田悦子)

「総社市図書館の利用促進の取り組み～貸出アップにむけて」

総社市図書館では、昨年度から利用者の方に、もっと資料を手にとってもらえるよう、本館内のレイアウトの変更やコーナーづくりなどを進めています。



〔映画・ドラマの原作本コーナー〕

映画やドラマの原作本を集めたミニコーナーは利用が多く、利用者の方が足を止め資料を手に行っているのを見ます。また、総社市で市民大学講座を開催したときは、講師の方の著書を集めるとよく貸出に出ていました。この夏は、怖い本の特集を組み、児童書から一般書までよく利用いただいています。



〔人気本コーナー〕

児童書のうち、利用の多いものや子どもたちによく聞かれる人気の資料を集めたコーナーを書

架の一部を利用して「人気本のコーナー」としてあります。このコーナーを目指していく子どもも多く、目的の本をなかなか探すことができなかった子どもにも利用しやすいようです。

料理本のコーナーでは、以前、請求記号のみで配架していましたが、利用者の方が探しやすいように「お菓子」「お弁当」「保存食」「パン」「その他」と分類し、それぞれのところにまとめて配架するようにしました。利用が多く品薄になった時は購入もしました。まとめることで、職員も一目瞭然で何が今よく利用されているのか確認することができ、探しやすくなりました。

総社市図書館では、自動車文庫が市内十一カ所の小学校に団体貸出を行っています。夏休みなどの長期休暇に入る前に団体貸出の資料を回収します。回収した自動車文庫の児童書のうち、比較的きれいで人気の高い資料を本館に「おすすめの本」として一カ所に集めて貸出を始めました。本館に出すことで、気楽に手に取ってもらうことができ、以前は長期休暇中に回収した資料がなかなか稼動していませんでしたが、本館に配架することで有効に利用されていると思います。

また、カウンター近くの大きめのテーブルを新刊テーブルとして利用していますが、新刊資料のみ置くのではなく、傷んで買い替えた資料や装丁がきれいで、少し前までよく貸出に出ていた資料も置いています。テーブルに置くことで利用者に見てもらい、手に取ってもらう機会も増えていると思います。

月に一度の乳児健診の際のブックスタートでは、会場に乳幼児向けの絵本や、育児に関する資料も持参し、その場で利用者カードの作成や貸出も行っています。待ち時間の間に資料を手にともらい、図書館に足を運んでもらうきっかけになればと思っています。

今後さらに職員一同アイデアを出し合って利用促進につながる取り組みを実施していきたいと思っています。また、他館の取り組みを積極的に吸収し、自館に活かしていければと考えています

(総社市図書館 井口真由美)

事務局からのお知らせ

■理事会・定期総会

平成26年度理事会を5月15日に、定期総会を6月2日に開催しました。当日資料および議事録は、協会ホームページで公開しています。

【平成26年度役員（敬称・役職略）】

会 長	(施) 岡山県立図書館	三村 修
副会長	(施) 岡山市立図書館	宮本 嘉彦
〃	(施) 岡山大学附属図書館	沖 陽子
理 事	(施) 倉敷市立図書館	岡野 敏弘
〃	(施) 総社市図書館	加藤 信二
〃	(施) ぐらしき作陽大学・ 作陽音楽短期大学 附属図書館	秋山 博正
〃	(施) 金光図書館	金光 英子
〃	(個) 学校司書	二部野陽子
〃	(個) 青年図書館員研修会	田中久美子
〃	(個) JLA代議員	菱川 廣光
監 事	(施) 津山市立図書館	大倉 淳一
〃	(施) 早島町立図書館	黒瀬 英樹
参 与	岡山県教育庁生涯学習課長	中本 正行
	(※ (施) 施設会員、(個) 個人会員の略)	

■平成26年度図書館功労者表彰

個人会員として図書館業務に従事貢献した次の方を表彰しました。(敬称略)

飯綱 陽子	・	上森 由恵	・	門脇 美葉
神田 有香	・	神原 亜紀子	・	隈元 恒
児玉 道代	・	坂本 満理枝	・	宿野 雅世
田中 福恵	・	徳永 ミカ	・	西村 康子
引野 麻子	・	松村 謙	・	三宅 深雪
宮本 有二	・	森 智子		

■本年度の研修

○県図協セミナー（第1回） 6月2日

「いま話題の図書館、そして岡山の図書館
—図書館のあり方を考える—」

講 師：田井 郁久雄氏

(元 広島女学院大学准教授)

参加者：72名

○県図協セミナー（第2回） 8月21日

「レファレンス・インタビュー

—利用者とのコミュニケーションを考える—」

講 師：齊藤 誠一氏

(千葉経済大学短期大学部教授)

参加者：22名

○教養講座 12月4日（予定）

テーマ「人と美を結びつける場所づくり」

講師：大原美術館職員

会場：倉敷市芸文館会議室

○県図協セミナー（第3回） 2月12日（予定）

「本の修理と資料保存」(予定)

■平成26年度企画委員

委 員 長 片山 裕太 (久米南町図書館)

副委員長 田原 茂美 (吉備中央町図書館)

委 員 森本 壮一郎 (岡山県立図書館)

〃 小林 博子 (岡山市立中央図書館)

〃 原 博子 (倉敷市立児島図書館)

〃 多曾田陽子 (真庭市立勝山図書館)

〃 横山ひろみ (瀬戸内市立図書館)

〃 奈良 裕子 (環太平洋大学附属図書館)

〃 川上 研三 (岡山大学附属図書館鹿田
分館)

■参加者・派遣者を募集中！

○研修参加助成事業による平成26年度の派遣者を募集しています。

○平成27年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。

詳しくは、協会ホームページをご覧ください。

■図書館関連ニュース

学校図書館法の一部を改正する法律が、平成26年6月20日に参議院本会議で可決成立しました。

学校図書館の職務に従事する職員を学校司書として位置付け、これを学校に置くよう努めなければならないこと等について定めたものです。

平成26年9月30日発行

〒700-0823

岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 三村 修

TEL：086-224-1286